

■■受験対策ミニ講座 12号■■

日本列島はまたも地震に見舞われ、11月の末には広い範囲で雪が降りました。昨年の国家試験当日は九州の試験会場付近でも積雪があって驚きましたが、天変地異や紛争の中でも、常に社会的支援を必要とする人の立場で活動するのが、ソーシャルワーカーです。危機的な状況の中でこそ、フットワーク軽く適切な行動がとれるようなワーカーを目指したいものです。

今回の科目「心理学理論と心理的支援」は、自分自身を含めた「人の心理」について学ぶ機会と捉えて取り組んでください。定番問題が多い科目でもあります。

第12問<心理学理論と心理的支援>—————

〔28回8〕達成動機の高い人に関するものとして、適切なものを1つ選べ。

- 1 自分が取り組んだ課題に失敗すると、その原因を運などの外的要因のせいにする。
- 2 高い目標を設定し、困難な課題に果敢に挑戦しようとする。
- 3 自分が下した決定に対する責任を重視しない。
- 4 一緒に働く同僚として、有能な人よりも親しみのもてる人を選ぶ。
- 5 自分が挙げた成果については気にしない。

■Plus Column

【秋深き隣は何をする人ぞ】

防犯ポスターにも使われて聞き覚えのあるこの句が、江戸の俳人松尾芭蕉の句だと知った時は、ちょっと驚きでした。「隣は何を...」の部分は、地域福祉に関して「人間関係の希薄化」を表現する時にもよく使われますね。

「隣」を文字通り、「近隣の」と捉えれば、地縁や血縁などの「インフォーマルなネットワーク」、そこで提供される支援は「インフォーマルサポート」と言われます。これに対して、専門職によって提供されるサポートを「フォーマルサポート」といい、両者があって始めて地域生活が成り立つとされます。

近年、「災害ソーシャルワーク」の必要性が強調され、多くの市町村で社会福祉協議会を中心にコミュニティソーシャルワーカーの配置が進められています。社会福祉士に多くのことが期待されていることを、ひしひしと感じます。

ちなみに、冒頭の句は旅に病み、宿泊先で寝付いた芭蕉による晩年の作品で、出席する予定だった句会に出席できないことを伝える「挨拶句」として書き送られたそうです。「隣」とは宿の隣の部屋のことになり、現代の解釈とは少し違いますが、人の営みに対する温かな関心が感じられることが、名句の名句たるゆえんでしょうか。

■Back Number

過去のバックナンバーはこちら→http://www.aigo.or.jp/yoseijo/?page_id=2686

〔28回8〕の正解と解説—————

達成動機の高い人に関するものとして、適切なのは2。

1×

自分が取り組んだ課題に失敗すると、その原因を運などの外的要因のせいにする。

達成動機の高い人は、自分の努力が足りなかったと考える傾向があります。

2○

高い目標を設定し、困難な課題に果敢に挑戦しようとする。

3×

自分が下した決定に対する責任を重視しない。

達成動機の高い人は、自分が下した決定に対する責任を重視する傾向があるとされます。

4×

一緒に働く同僚として、有能な人よりも親しみのもてる人を選ぶ。

達成動機の高い人は、親しみのもてる人よりも有能な人を選ぶ傾向があるとされます。

5×

自分が挙げた成果については気にしない。

達成動機の高い人は、自分が挙げた成果を知ろうとする傾向があるとされます。

※掲載内容の転載・再配布はご遠慮ください。

※メール内容に対する個別の対応は行っておりません。

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19K D X 浜松町ビル 6F

Copyright2016 YoseijoNewsplus

発信者： 公益財団法人 日本知的障害者福祉協会